

# 資料室便り

交通経済研究所資料室

## ■新着書棚から（新しく受け入れた資料の紹介）

### 『送料有料』です！

——人口減少社会でも持続可能な物流サービスのあり方』

森田富士夫著／白桃書房発行／2023年1月／四六判／220ページ／2,300円（税込）

本書は、新しい日本社会の生活と経済を支えることができるような持続可能な物流の構築について、トラック輸送を中心に考察したものである。現在、日本では人口の減少・偏在化や高齢化が進行しており、国内貨物輸送量の減少、輸配送密度の地域差の拡大、および商品1個当たりの物流コスト上昇が進むと考えられる。その中でも、輸送分担率が高く柔軟性を有するトラック輸送は、効率性が高い営業用トラック輸送への依存度が高まるとともに、物流共同化などによりトラック台数が減少すると考えられる。しかし、長時間労働で低賃金なトラックドライバーは不足しているため、労働条件改善の原資確保のためのコスト削減、悪しき商習慣や経営者の姿勢の改善、生産性向上などを社会全体で取り組み、物流を持続可能なものとする必要がある。古森□

## ■書庫のなかから（所蔵資料の紹介）

### 『地域交通をあるく』

伊藤滋監修、大西隆著／山海堂発行／1980年9月

本書は、地方都市の交通問題を展望したもので、実際に現場を歩き、地元の声に耳を傾けながら「日常生活と交通に関する問題」をまとめている。著者は当時、都市計画を専攻する若手の研究者で

あったが、後に日本都市計画学会会長などを歴任し、現在は東京大学名誉教授などを務める。全体は2章に分かれ、第1章は「札幌：地下鉄とバス、マイカーの結合を」、「鳥取：過疎の足 バスの運命は」など、全国20か所の都市・地域の実態を調査したルポルタージュで構成、第2章ではこれらの共通点から地方交通の現状と課題を横断的に概観する。地方交通はその大部分を道路容量に依存しているが、大規模な投資よりもまず現状の道路ストックを有効に活用し、利用法を工夫するべきだ。また、各地域がそれぞれの交通手段の役割や重要性を考えること、交通計画に地域性や人間中心の発想を持たせることが大切であり、これは自治体が当事者意識を持って行うべきだと著者は述べている。原□

## ■新着情報（2023年4月分）

- 1 Verkehr in Zahlen 2022/2023（ドイツ：数字でみる交通 2022/2023）Deutsches Zentrum für Luft- und Raumfahrt e.V. (DLR) Institut für Verkehrsforschung, ほか編 Kraftfahrt-Bundesamt 2022年9月
- 2 航空統計要覧 2022年版 日本航空協会編 同法人 2023年3月
- 3 エネルギー・経済統計要覧 2023年版 日本エネルギー経済研究所編 理工図書 2023年4月  
→続きの情報はホームページで

\* 上記以外の新着図書や新着雑誌につきましては、ホームページをご覧ください。キーワードによる蔵書検索も可能です。併せて月別の「新着図書目録」も掲載しています。



## ■資料室からのご案内

書庫のなかから（所蔵資料の紹介）でご紹介した図書は、すべて手に取ってご覧いただけます。ぜひ資料室にお越しください。

担当：土方規義 古森崇史 原祥太 田邊由佳